

「音声障害、構音障害に対する音声読み上げアプリケーション“指伝話”の使用経験」

永生病院 副院長 赤木家康

発声機能の喪失には、主に脳血管障害で脳の言語中枢（言語野）が傷害されることで（「聞く」「話す」といった音声に関わる機能、「読む」「書く」といった文字に関わる機能）が障害された状態である失語症、構音器官の麻痺などによる運動機能障害や先天的な構音器官の奇形などによる器質性障害などの構音障害、また私たち喉頭癌や下咽頭癌、食道癌などで喉頭摘出を行って器質的に発声が不可能となる場合、さらに主としてストレスや心的外傷などによる心因性の原因から、声を発することができなくなる失声症がある。

発声障害を負った人が意思を伝達する場合に最も簡便な方法としては筆談が一つのツールとして長年にわたって用いられてきた。しかし一度に表現できる情報量が少ない、書字に時間を要する、書字の明瞭さが求められるなどのデメリットもある。また書字に必要な運動機能障害が無いことも必要である。

近年、iPod や iPad などタッチパネルを触るだけで操作できるツールが急速に発達してきた。必要なアプリケーション（ソフトウェア）をインストールすることで様々な機能を簡便に使用することが出来る。アプリケーションも多種多様なものがリリースされている。

今回、iPod のアプリケーションである“指伝話”を用いて iPod の読み上げでコミュニケーションを取り、日常生活や、職務にまで用いる事が可能となったのでご紹介する。

